

わ そ う
和 草 え え と こ 夢 プ ラ ン

平成30(2018)年3月

和 草 自 治 区

(和草地区地域計画策定委員会)

目 次

序章	計画策定にあたって	1
1章	地区の概要	2
1	位置	2
2	人口・世帯数	3
3	土地利用, 道路・交通	4
4	主要公共公益施設	4
2章	地区づくりに関するアンケート調査結果の概要	6
1	地区住民(16歳以上)	6
2	地区出身者(正月の帰省者)	17
3章	地区の魅力・資源と問題点・課題	25
1	地区の魅力・資源	25
2	地区の問題点・課題	27
4章	地区づくり計画	28
1	地区の将来像	28
2	地区づくりの基本方針	30
3	地区づくりの基本計画	31
4	計画の推進体制	39
資料	計画策定の取り組み	41

序章 計画策定にあたって

1 計画策定の目的

和草地区は、広島空港、山陽自動車道三原久井インターチェンジに比較的近く、高速交通条件に恵まれています。また、世羅町中心部に近く、買い物や通院に便利なほか、3つの寺院があるなど歴史文化に彩られた地区です。

人口は、若年層を中心とした流出、高齢化・少子化が進んでいましたが、近年は若年層のUIターンなどにより人口減少に歯止めがかかりつつあります。

こうした流れを確かなものにするために、自分たちの地区のことは自分たち自らで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力し、目標を持って地区づくりに取り組むことが重要です。

このため、和草自治区では、三原市中山間地域活性化事業を活用し、誰もが誇りをもち、自慢できる地区づくりを目指して「和草ええとこ夢プラン」の策定に取り組みました。

2 計画の役割

「和草ええとこ夢プラン」は、和草自治区が地区の各種団体などと連携して取り組むことを総合的に示したもので、住民、関係団体などで地区づくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、和草地区出身者、都市住民など、多様な方からの幅広い応援を働きかけるために活用します。

3 計画策定への取り組み

和草自治区では、各種団体の代表者などとともに「和草地区地域計画策定委員会」を設置し、「和草ええとこ夢プラン」の策定に取り組みました。

また、計画策定にあたっては、住民の皆さんの幅広い意見を聞くために、地区住民（16歳以上）及び地区出身者（正月の帰省者）の方へのアンケート調査と和草地区づくり意見交換会（ワークショップ）を行いました。

4 計画の期間

計画の期間は、平成30(2018)～34(2022)年度までの5年間とします。

1章 地区の概要

1 位置

本地区は、三原市久井地域の北部に位置しています。

地区中心部（和草コミュニティホーム）から主要な場所まで車を利用した場合の所要時間は、三原市中心部（三原市役所）まで約35分です。また、広島空港まで約30分（広島中央フライトロード経由）、山陽自動車道三原久井インターチェンジまで約15分、JR山陽新幹線・山陽本線三原駅まで約35分です。

図 和草地区の位置



2 人口・世帯数

(1) 人口の動向

本地区の総人口を住民基本台帳で見ると、平成29(2017)年で199人になっており、過去5年間で5人減少しています。

年齢3区分別人口をみると、平成29(2017)年で0～14歳20人、15～64歳93人、65歳以上86人になっており、高齢化率は43.2%になっています。

年齢別人口の推移をみると、過去5年間で0～14歳及び65歳以上は増加、15～64歳は減少となっています。

表 人口の推移

(単位：人，%)

区 分		実 数			増減数	
		H19 (2007)年	H24 (2012)年	H29 (2017)年	H24(2012)－ H19(2007)	H29(2017)－ H24(2012)
実 数	0～14歳	16	16	20	0	4
	15～64歳	126	107	93	△19	△14
	65歳以上	76	81	86	5	5
	合 計	218	204	199	△14	△5
割 合	0～14歳	7.3	7.8	10.1	－	－
	15～64歳	57.8	52.5	46.7	－	－
	65歳以上	34.9	39.7	43.2	－	－

注：人口は、住民基本台帳（各年9月末現在）。

(2) 世帯数の動向

本地区の総世帯数を住民基本台帳で見ると、平成29(2017)年で84世帯になっており、過去5年間で7世帯増加しています。

1世帯当たり世帯人員は平成29(2017)年で2.4人になっており、過去5年間で0.2人減少しています。

表 世帯数等の推移

区 分	実 数			増減数	
	H19 (2007)年	H24 (2012)年	H29 (2017)年	H24(2012)－ H19(2007)	H29(2017)－ H24(2012)
世帯数（世帯）	86	77	84	△9	7
世帯人員（人）	2.5	2.6	2.4	0.1	△0.2

注：世帯数は、住民基本台帳（各年9月末現在）。

3 土地利用，道路・交通

本地区は，南北に流れる泉川沿いに農地・集落が主に分布しており，その東西を毛無山，虚空蔵山などの山並みが囲んでいます。

道路網は，地区中央を(一)羽和泉室町線が南北に走るとともに地区北部を(一)大和久井線が走り，この2路線が骨格道路になっています。この道路を通じて，三原市及び世羅町中心部，山陽自動車道久井インターチェンジ，広島空港と連絡しています。

公共交通機関としては，三原駅前と大和地域下徳良を連絡しているバス路線があります。

4 主要公共公益施設

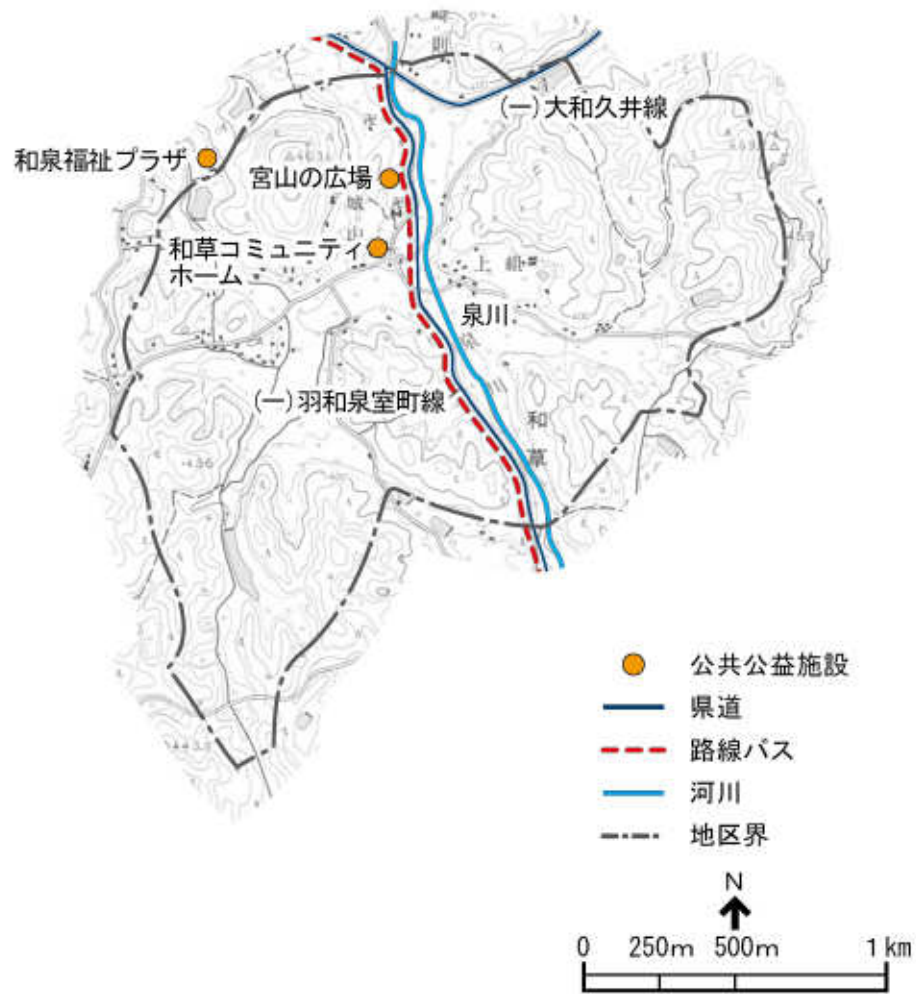
本地区には，集会施設として地区中央に和草コミュニティホームがあるほか，泉地区と一緒に利用している和泉福祉プラザがあります。

また，スポーツ施設として宮山の広場があります。

表 黒郷地区の公共公益施設

区 分	名 称
集会施設	和草コミュニティホーム，和泉福祉プラザ
スポーツ施設	宮山の広場

図 和草地区の公共公益施設



2章 地区づくりに関するアンケート調査結果の概要

本調査は、地区住民（16歳以上）及び地区出身者（正月の帰省者）の方の地区づくりへの意見を把握し、「和草ええとこ夢プラン」の策定に反映するために行ったもので、調査票の回収件数は地区住民の方160件、地区出身者の方42件でした。

1 地区住民（16歳以上）

(1) 回答者自身について

回答者の方の性別は、「男性」45.0%、「女性」55.0%で女性の割合が高くなっています。年齢は、16～39歳16.9%、40～59歳26.3%、60～74歳30.0%、75歳以上25.0%です。

家族構成は、二世帯（子どもと同居+親と同居）が32.5%で最も割合が高くなっています。一方、「一人暮らし（65歳以上）」8.1%と「夫婦二人暮らし（二人とも又はどちらかが65歳以上）」15.0%を合わせた割合は2割以上です。

図 性別

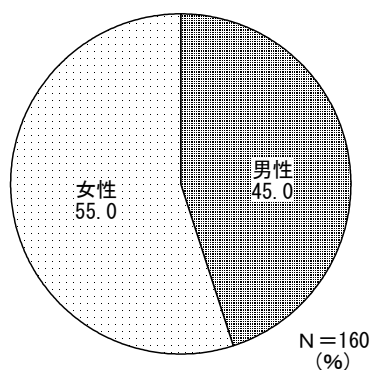


図 年齢

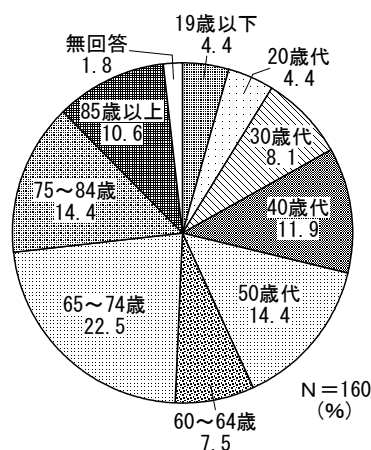
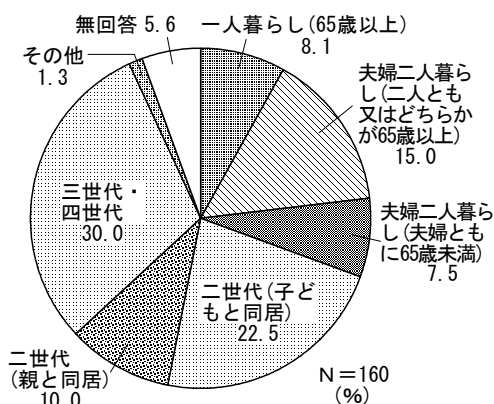


図 家族構成



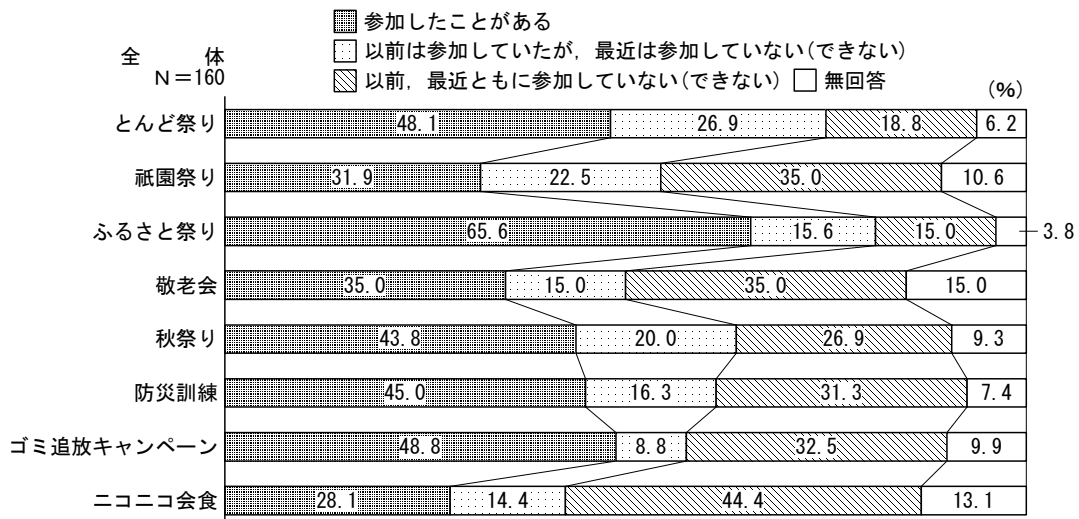
(2) 行事・活動への参加状況と満足度

ア 行事・活動への参加状況

行事・活動へ「参加したことがある」と答えた人をみると、「ふるさと祭り」が65.6%で非常に高く、次いで「とんど祭り」、「ゴミ追放キャンペーン」、「防災訓練」、「秋祭り」の4項目で40%台になっています。その他では、「敬老会」35.0%、「祇園祭り」31.9%、「ニコニコ会食」28.1%の順です。

また、「以前は参加していたが、今は参加していない」の割合をみると、「とんど祭り」、「祇園祭り」、「秋祭り」の3項目で20%台と割合が高くなっています。

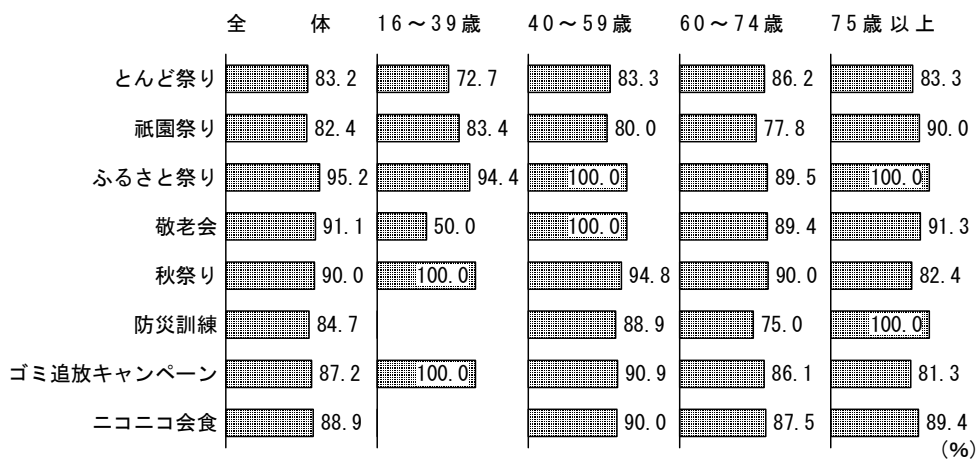
図 行事・活動への参加状況



イ 行事・活動に参加した人の満足度

行事・活動へ参加している人の満足度（「良い」と「やや良い」を合わせた割合）をみると、90%台3項目、80%台5項目で、各行事ともに満足度が高くなっています。

図 行事・活動の満足度

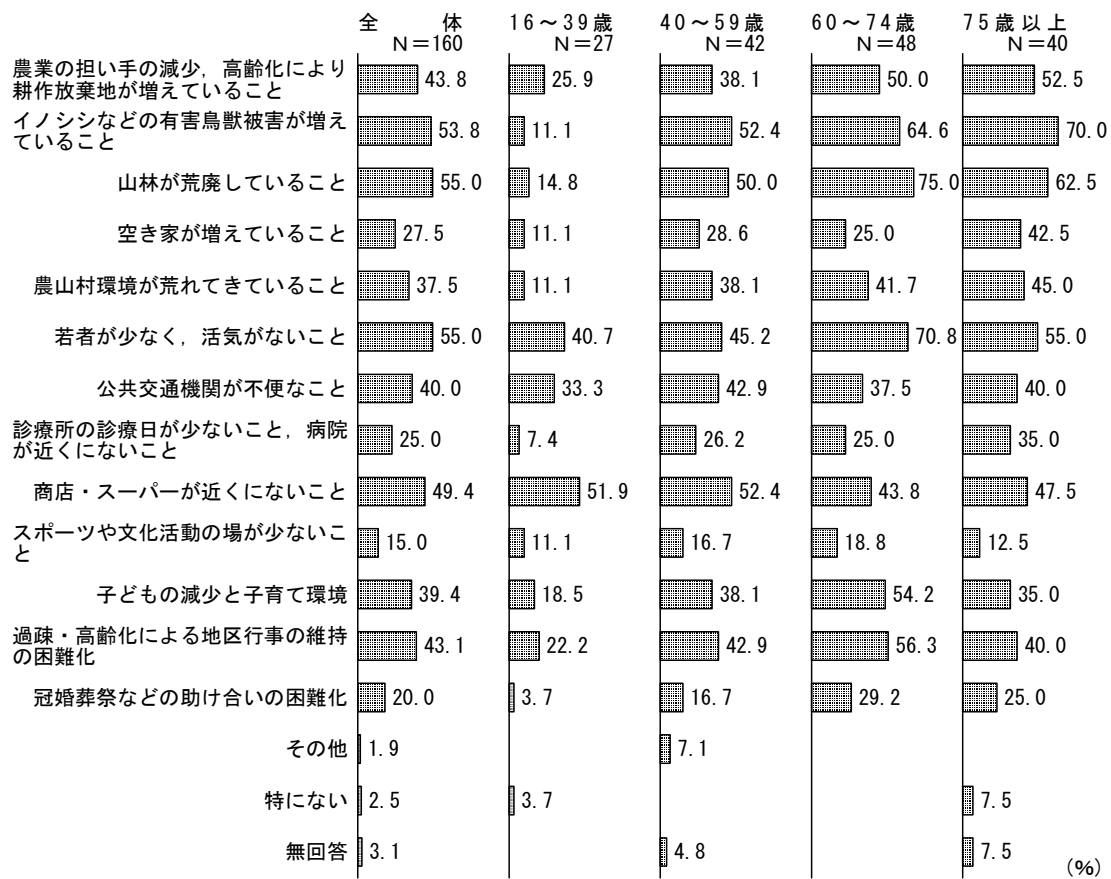


(3) 地区の現状や将来のことでの不安や今後の居住意向

ア 地区の現状や将来のことでの不安に思っていること

地区の現状や将来のことでの不安に思っていることは、「山林が荒廃していること」及び「若者が少なく、活気がないこと」が55.0%で最も割合が高く、次いで「イノシシなどの有害鳥獣被害が増えていること」53.8%、「商店・スーパーが近くにないこと」49.4%、「農業の担い手の減少、高齢化により耕作放棄地が増えていること」43.8%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。その他では、「過疎・高齢化による地区行事の維持の困難化」43.1%、「公共交通機関が不便なこと」40.0%、「子どもの減少と子育て環境」39.4%、「農村環境が荒れてきていること」37.5%などの順です。

図 地区の現状や将来のことでの不安に思っていること（複数回答：いくつでも）

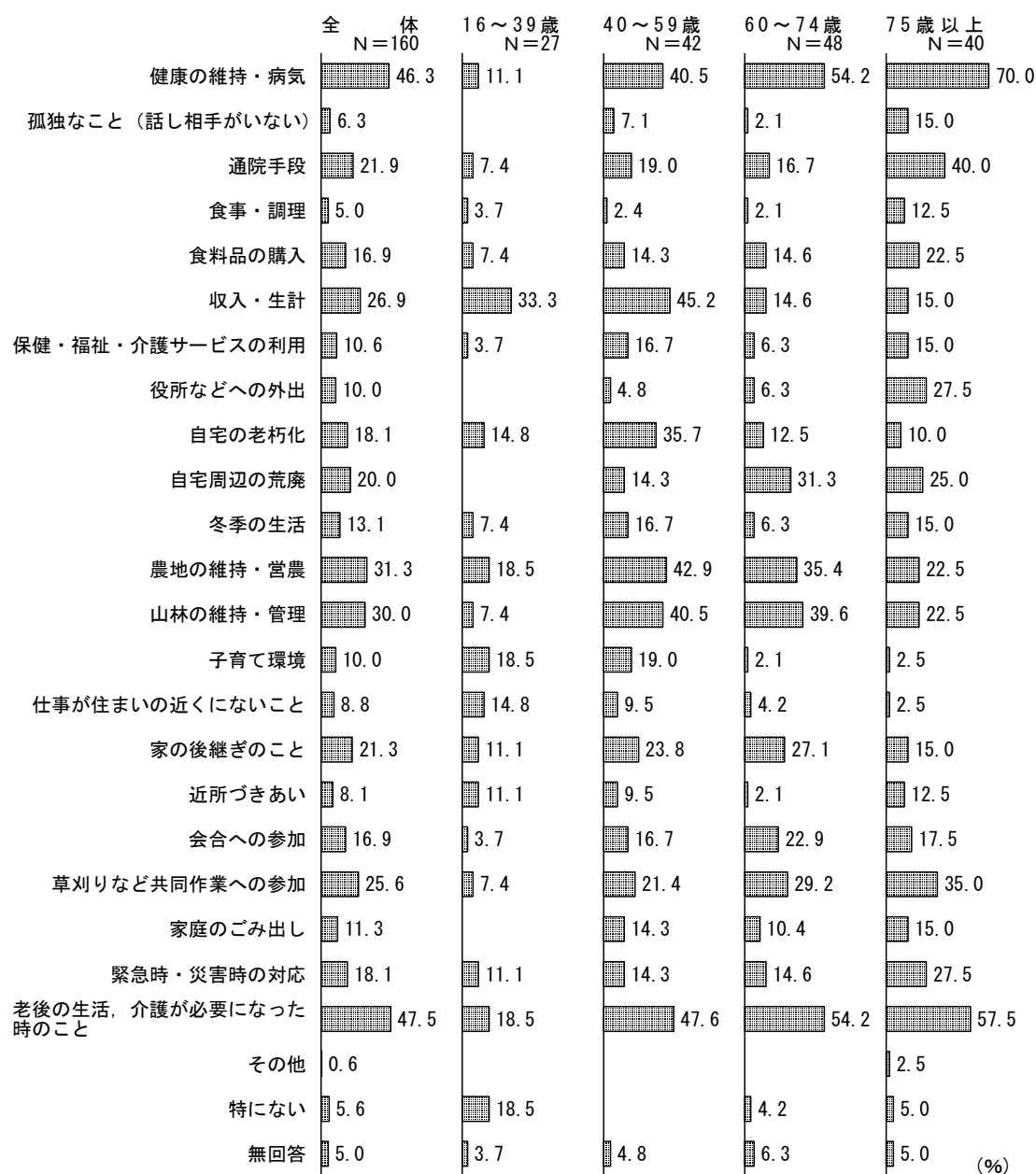


イ 個人や家族のことで不安に思っていること

個人や家族のことで不安に思っていることは、「老後の生活、介護が必要になった時のこと」が47.5%で最も割合が高く、次いで「健康の維持・病気」46.3%で、この2項目の割合が高くなっているほか、「農地の維持・営農」31.3%、「山林の維持・管理」30.0%、「収入・生計」26.9%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。

その他では、「草刈りなどの共同作業への参加」25.6%、「通院手段」21.9%、「家の後継ぎのこと」21.3%、「自宅周辺の荒廃」20.0%、「自宅の老朽化」及び「緊急時・災害時の対応」18.1%などの順です。

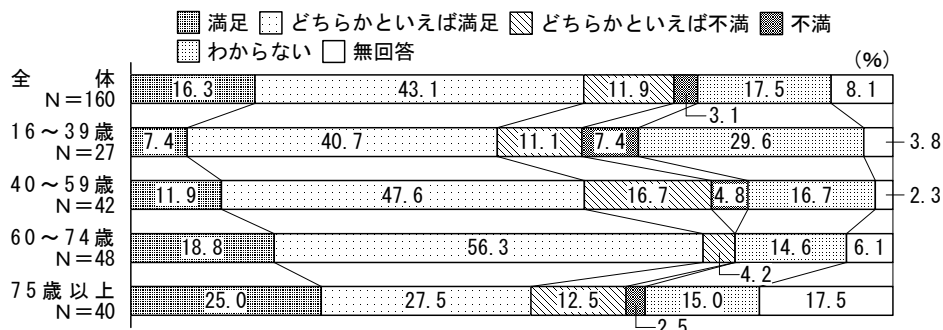
図 個人や家族のことで不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



ウ 地区の生活環境の評価

地区の生活環境については「満足」16.3%、「どちらかといえば満足」43.1%で、これらを合わせた生活環境に満足している人は約6割です。

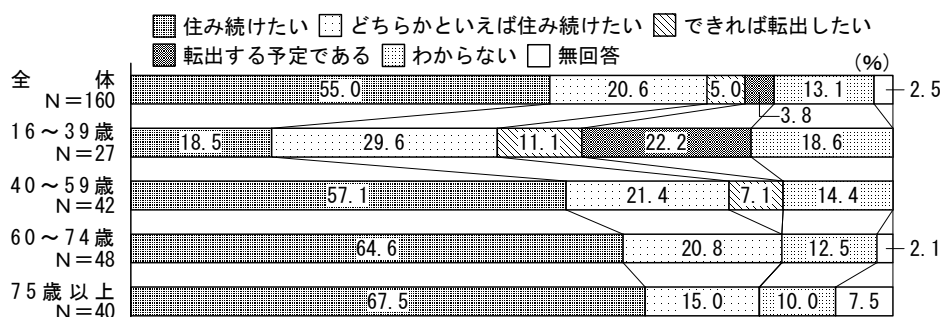
図 地区の生活環境の評価



エ 地区への今後の居留意向

地区への今後の居留意向は「住み続けたい」55.0%、「どちらかといえば住み続けたい」20.6%で、これらを合わせた地区へ住み続ける意向の人は7割以上です。地区の生活環境に満足している人は約6割ですが、地区へ住み続ける意向の人は7割以上になっています。

図 地区への今後の居留意向



オ 地区に住み続けたいと思う理由

地区に住み続ける意向の人の地区に住み続けたいと思う理由としては、「先祖からの家や土地がある」が71.9%で最も割合が高く、次いで「長年住み慣れて愛着がある」60.3%、「自然環境が良い」48.8%の順で、これら3項目を挙げた人の割合が高くなっています。

カ 地区を転出したいと思う理由

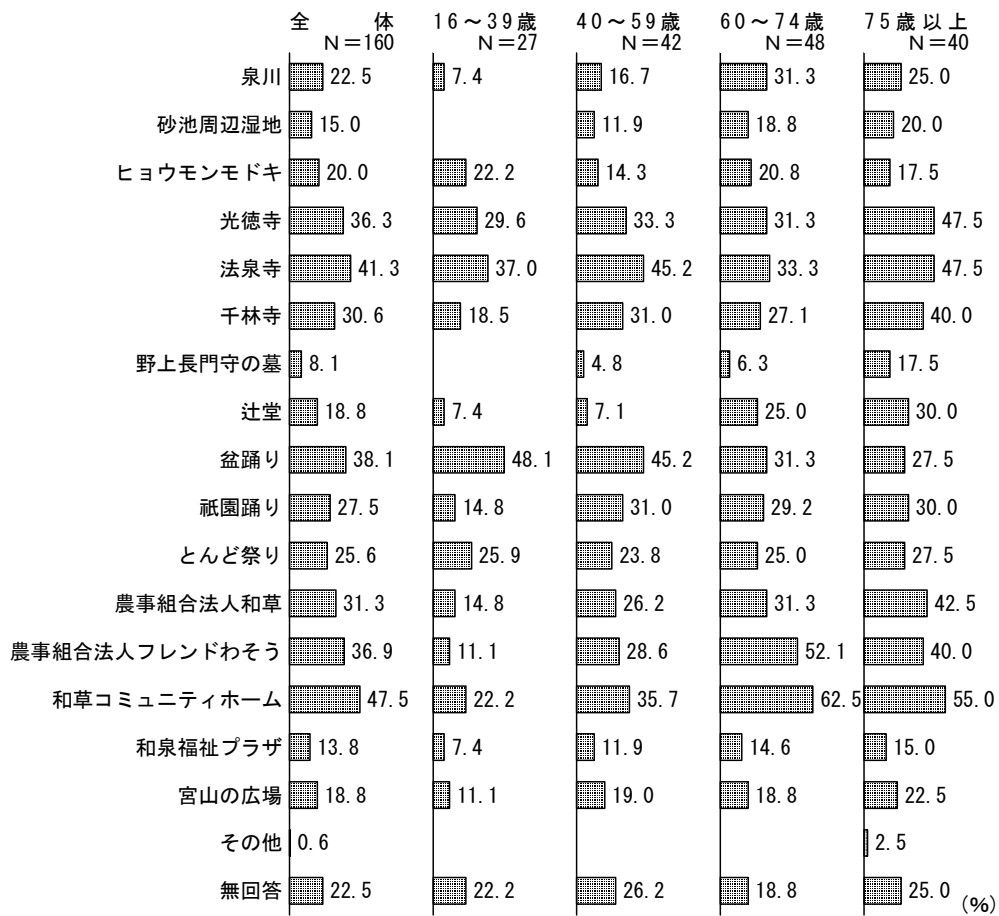
地区を転出する意向のある人の地区を転出したいと思う理由としては、「買い物や通院に不便」及び「進学・就職」が50.0%で最も割合が高く、次いで「交通条件が悪く不便」42.9%、「自分の思う仕事がない、通勤に不便」及び「老後の生活に不自由」35.7%の順です。

(4) 今後の地区づくりについて

ア 地区で大事にしたい、活用したい資源

地区で大事にしたい、活用したい資源としては、「和草コミュニティホーム」が47.5%で最も割合が高く、次いで「法泉寺」41.3%、「盆踊り」38.1%、「農事寺組合法人フレンドわそう」36.9%、「光徳寺」36.3%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。その他では、「農事組合法人和草」31.3%、「千林寺」30.6%、「祇園踊り」27.5%、「とんど祭り」25.6%、「泉川」22.5%などの順です。

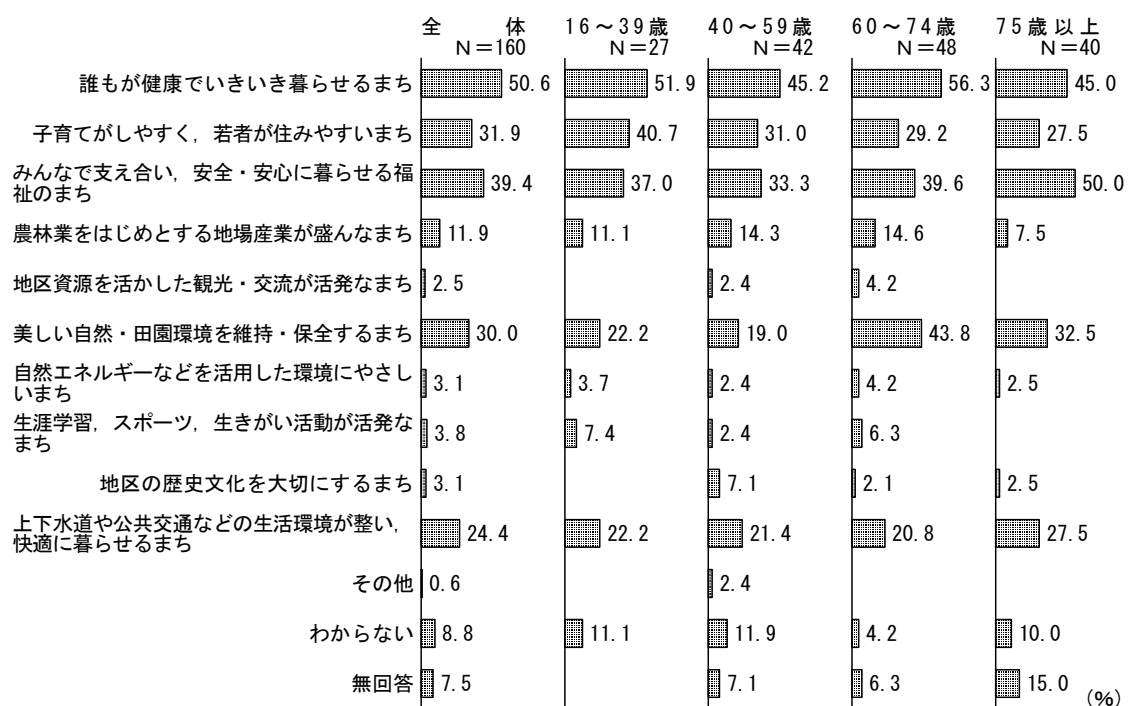
図 地区で大事にしたい、活用したい資源（複数回答：いくつでも）



イ 地区の将来像

地区の将来像は、「誰もが健康でいきいき暮らせるまち」が50.6%で最も割合が高く、次いで「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」、「美しい自然・田園環境を維持・保全するまち」の3項目が30%台になっています。

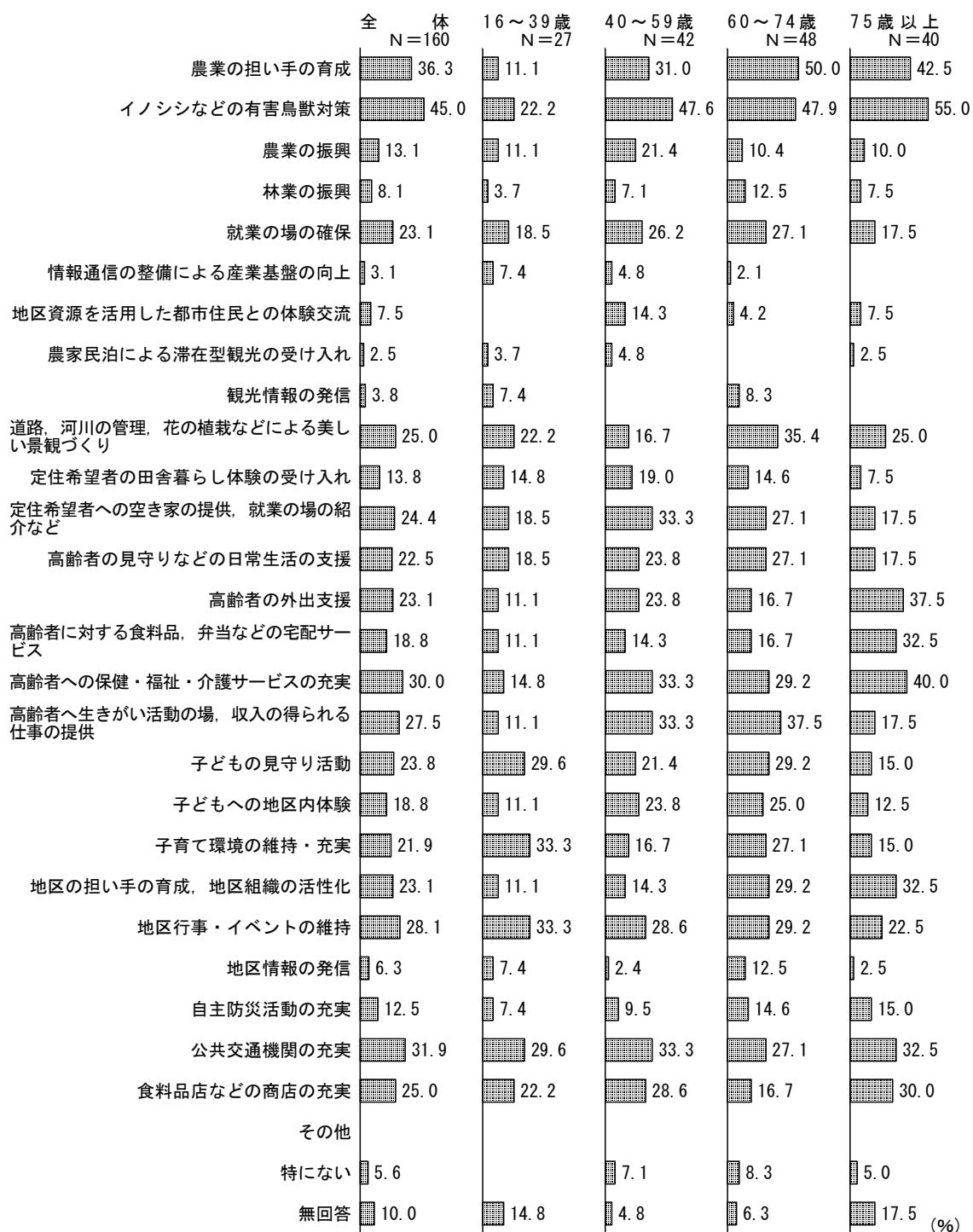
図 地区の将来像（複数回答：3つ以内）



ウ 地区で今後取り組みたいこと，取り組んで欲しいこと

地区で今後取り組みたいこと，取り組んで欲しいこととしては、「イノシシなどの有害鳥獣対策」が45.0%で最も割合が高く，次いで「農業の担い手の育成」36.3%，「公共交通機関の充実」31.9%，「高齢者への保健・福祉・介護サービスの充実」30.0%，「地区行事・イベントの維持」28.1%の順で，これらの項目が上位5位を占めています。

図 地区で今後取り組みたいこと，取り組んで欲しいこと（複数回答：いくつでも）

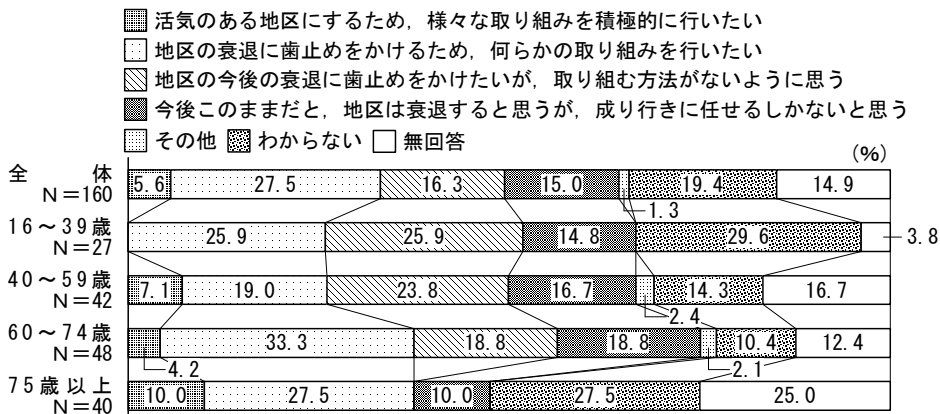


(5) 地区づくりへの参加について

ア 地区の活性化に向けての取り組み意向

地区の活性化に向けての取り組み意向については、「活気のある地区にするため、様々な取り組みを積極的に行いたい」5.6%、「地区の衰退に歯止めをかけるため、何らかの取り組みを行いたい」27.5%で、これらを合わせた地区の活性化を図るために何らかの取り組みをしたいと考えている人は33.1%です。

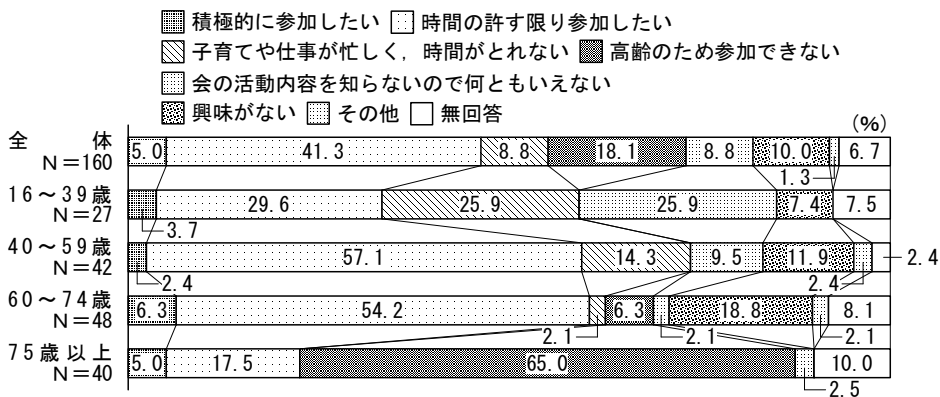
図 地区の活性化に向けての取り組み意向



イ 自治区活動への参加意向

自治区活動への参加については、「積極的に参加したい」5.0%、「時間の許す限り参加したい」41.3%で、これらを合わせた自治区活動へ参加意向のある人は46.3%です。

図 自治区活動への参加意向



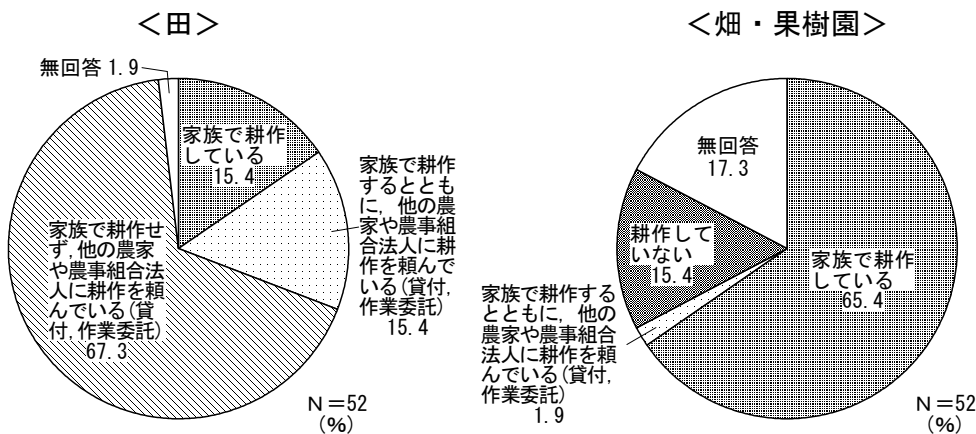
(6) 農地の耕作状況と今後の耕作意向

ア 農地の現在の耕作状況

田の現在の耕作状況は、「家族で耕作せず、他の農家や農事組合法人に耕作を頼んでいる（貸付、作業委託）」が67.3%で最も割合が高く、次いで「家族で耕作している」及び「家族で耕作するとともに、他の農家や農事組合法人に耕作を頼んでいる（貸付、作業委託）」15.4%の順で、家族で耕作せずに他の農家や農事組合法人に頼んでいる世帯が約7割となっており、各世帯の農業離れが進んでいます。

また、畑・果樹園の現在の耕作状況は、「家族で耕作している」が65.4%で、回答した人の大部分を占めています。

図 現在の耕作状況

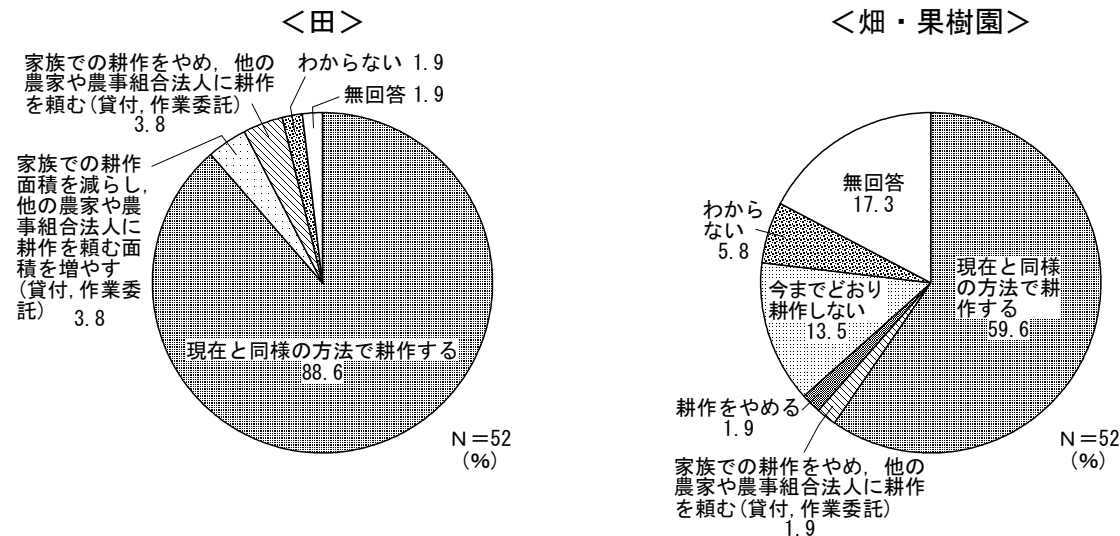


イ 農地の今後の耕作意向

田の今後の耕作意向は、「現在と同様の方法で耕作する」が88.6%でほとんどを占めています。その他では、「家族での耕作面積を減らし、他の農家や農事組合法人に耕作を頼む面積を増やす（貸付、作業委託）」及び「家族での耕作をやめ、他の農家や農事組合法人に耕作を頼む（貸付、作業委託）」が3.8%です。

また、畑・果樹園の今後の耕作意向は、「現在と同様の方法で耕作する」が59.6%で、回答した人の大部分を占めています。

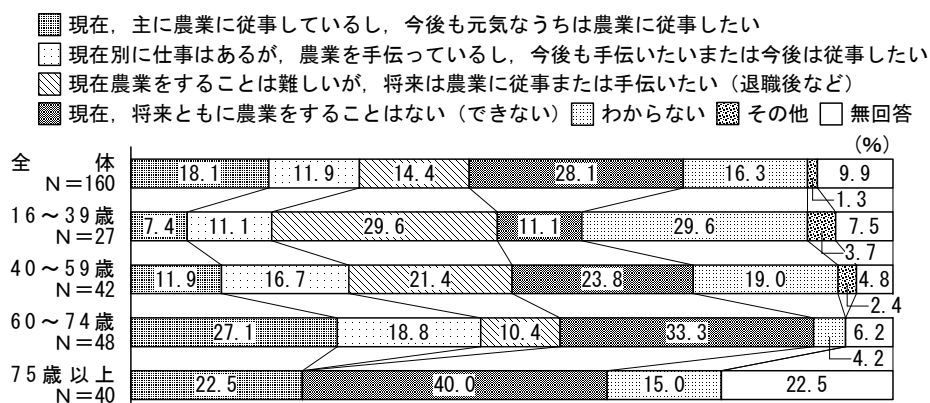
図 今後の耕作意向



ウ 農業への現在の従事状況及び今後の従事意向

農業への現在の従事状況及び今後の従事意向は、「現在、主に農業に従事しているし、今後も元気なうちは農業に従事したい」18.1%、「現在別に仕事はあるが、農業を手伝っているし、今後も手伝いたいまたは今後は従事したい」11.9%、「現在農業をすることは難しいが、将来は農業に従事または手伝いたい（退職後など）」14.4%で、現在農業に従事または手伝っている人が30.0%、今後農業に従事または手伝う意向の人が44.4%です。

図 農業への現在の従事状況及び今後の従事意向



2 地区出身者（正月の帰省者）

(1) 回答者自身について

回答者の性別は「男性」28.6%、「女性」61.9%で、女性が男性の倍以上になっています。

年齢は「40～50歳」が52.3%で半分以上を占めており、次いで「20～30歳」31.0%、「60歳以上」11.9%、「18～19歳」4.8%の順です。

住まいは「三原市」16.7%、「広島県（三原市以外）」45.2%、「県外」28.6%です。

転出時期は「19～22歳（大学時代）」が52.4%で半分以上を占めており、次いで「23～29歳」19.0%、「16～18歳（高校時代）」及び「30～39歳」7.1%、「15歳以下（中学生以下）」2.4%の順です。

転出理由は「就学」が38.1%で最も割合が高く、次いで「新規就職」26.2%、「転勤」11.9%、「結婚」9.5%の順です。

図 性別

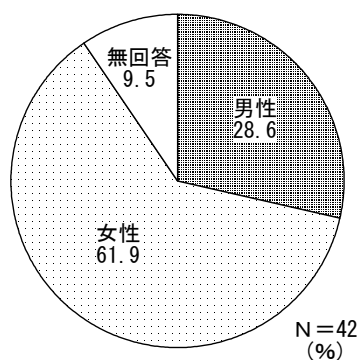


図 年齢

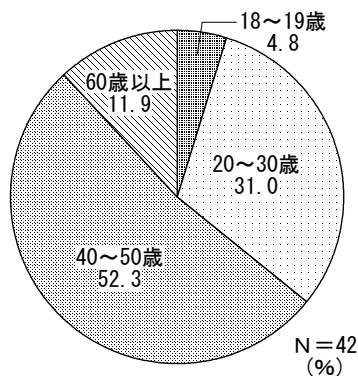


図 住まい

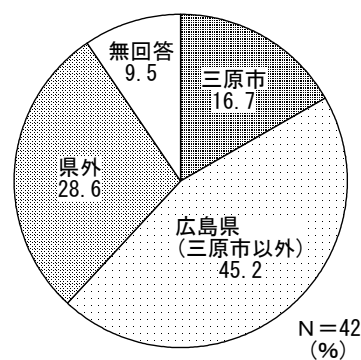


図 転出時期

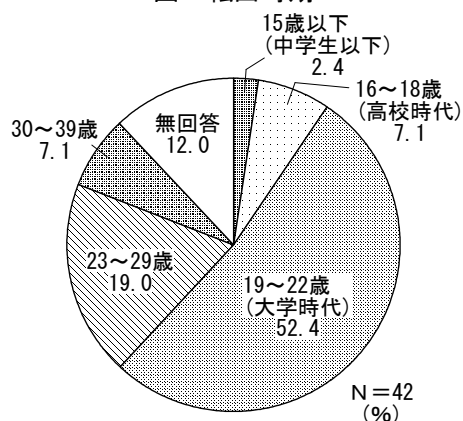
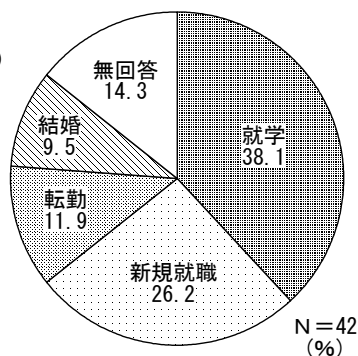


図 転出理由



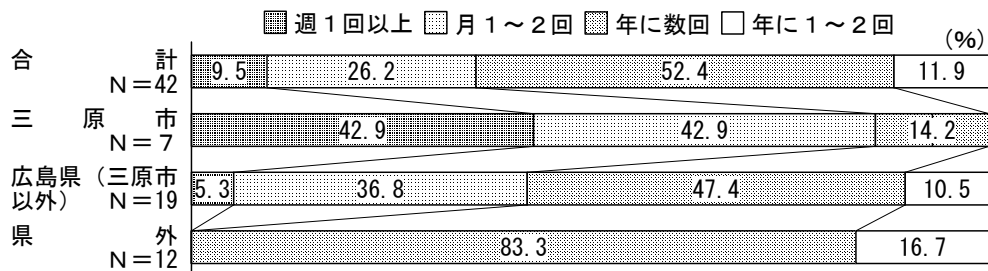
(2) ふるさとへの帰省状況

ア ふるさとへの年間帰省回数

ふるさとへの年間帰省回数は「年に数回」が52.4%と半分以上になっており、次いで「月1～2回」26.2%、「年1～2回」11.9%、「週1回以上」9.5%の順で、「ほとんど帰らない」と答えた人はいませんでした。

住まい別にみると、月1回以上帰省する人が三原市で8割以上、広島県で4割以上です。

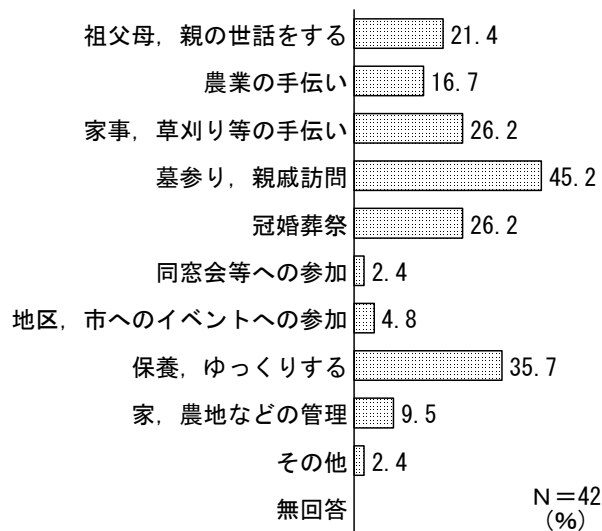
図 ふるさとへの年間帰省回数



イ ふるさとへの帰省理由（年1回以上帰省する人）

ふるさとへ年1回以上帰省する人の理由は、「墓参り，親戚訪問」45.2%、「保養，ゆっくりする」35.7%で、この2項目の割合が高くなっています。その他では、「家事，草刈り等の手伝い」及び「冠婚葬祭」26.2%、「祖父母，親の世話をする」21.4%、「農業の手伝い」16.7%などの順です。

図 ふるさとへ帰省理由（複数回答：いくつでも）



(3) ふるさとへの関心

ア ふるさとの行事への参加意向

ふるさとの行事に「参加したい」と「時々参加したい」を合わせたふるさとの行事に参加する意向のある人は45.2%です。

住まい別にふるさとの行事へ参加する意向のある人の割合をみると、県外が75.0%で最も割合が高く、次いで三原市42.9%、広島県（三原市以外）36.8%の順です。

ふるさとの行事に参加する意向のある人の参加したい行事をみると、「ふるさと祭り」89.5%、「とんど祭り」63.2%で、この2項目の割合が高くなっています。その他では、「祇園祭り」21.1%、「秋祭り」15.8%の順です。

図 ふるさとの行事への参加意向のある人の割合

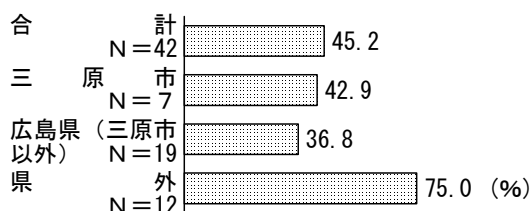
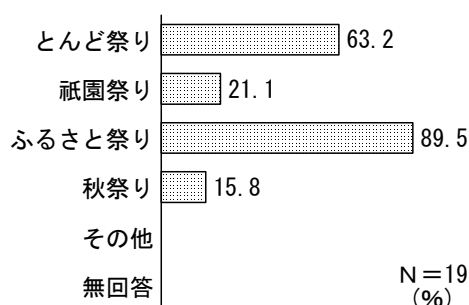


図 参加したい行事 (複数回答：いくつでも)



イ ふるさと情報について

「ふるさとの情報を定期的に欲しい」と答えた人は26.2%で、住まい別にみると、県外が33.3%で最も割合が高く、次いで三原市28.6%、広島県（三原市以外）26.3%の順です。

「ふるさとの情報を定期的に欲しい」と答えた人の欲しい情報の内容をみると、「地区内の話題」を挙げた人が72.7%で最も割合が高く、次いで「特産品の情報」54.5%、「行政の動き」及び「地区内の行事・イベント情報」45.5%などの順です。

図 ふるさと情報を定期的に欲しい人の割合

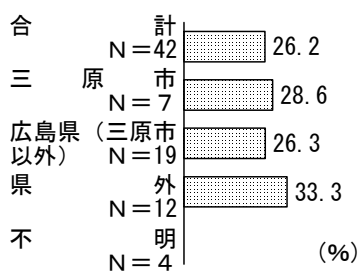
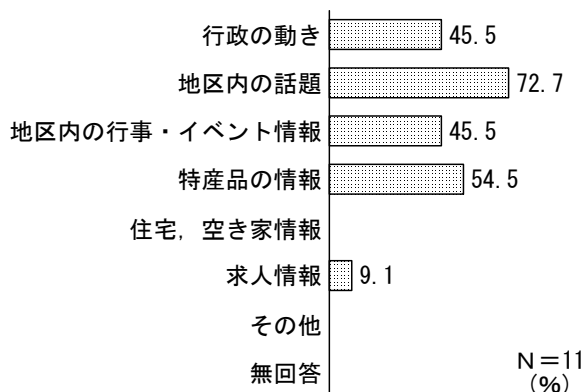


図 欲しい情報の内容 (複数回答：いくつでも)



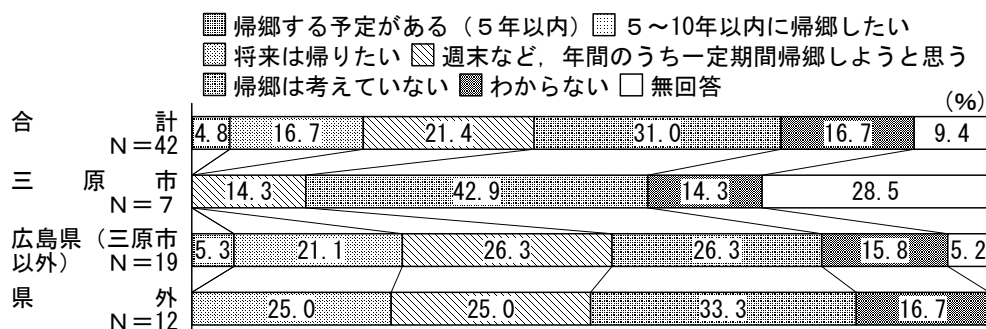
ウ ふるさとへの帰郷意向とその理由

(ア) ふるさとへの帰郷意向

ふるさとへの帰郷意向をみると、「帰郷する予定がある（５年以内）」4.8%、「将来は帰りたい」16.7%で、これらを合わせたふるさとに帰郷意向のある人の割合は21.5%です。（「５～10年以内に帰郷したい」と答えた人はいませんでした。）

また、「週末など、年間のうち一定期間帰郷しようと思う」と答えた人が21.4%です。一方、「帰郷は考えていない」31.0%、「わからない」16.7%になっています。

図 ふるさとへの帰郷意向

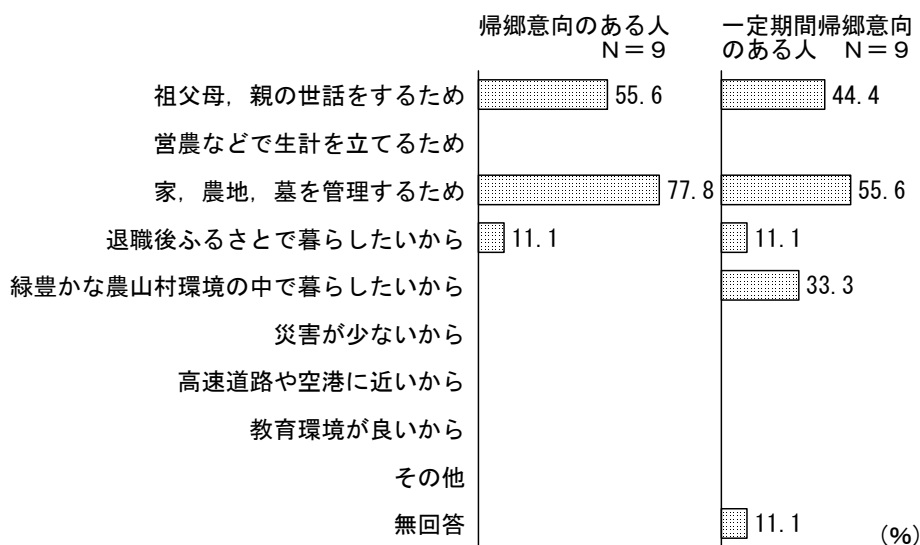


(イ) ふるさとに帰郷意向のある人などの理由

ふるさとに帰郷意向のある人の理由としては「家，農地，墓地を管理するため」を挙げた人が77.8%で最も割合が高く，次いで「祖父母，親の世話」55.6%の順で，この２項目の割合が高くなっています。

ふるさとに週末など，年間のうち一定期間帰郷意向のある人の理由としては帰郷意向のある人と同様の２項目の割合が高くなっているほか，「緑豊かな農山村環境のなかで暮らしたいから」が33.3%になっています。

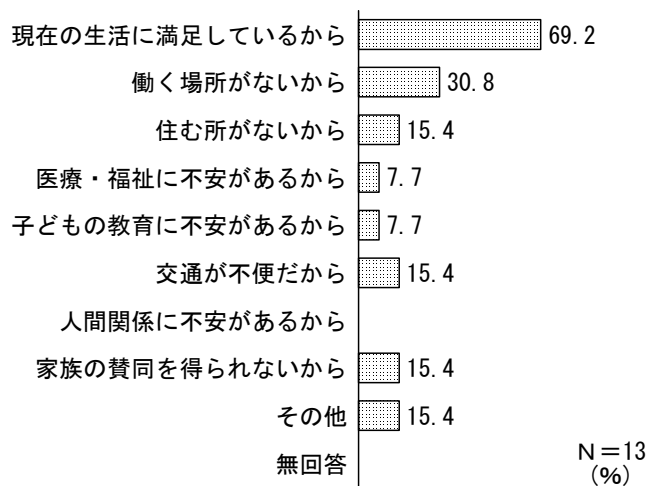
図 ふるさとに帰郷意向のある人などの理由（複数回答：いくつでも）



(ウ) ふるさとに帰郷を考えていない理由

ふるさとに帰郷を考えていない人の理由は、「現在の生活に満足しているから」を挙げた人が69.2%で大部分を占めているほか、「働く場所がないから」30.8%などの順になっています。

図 ふるさとに帰郷を考えていない人の理由（複数回答：いくつでも）

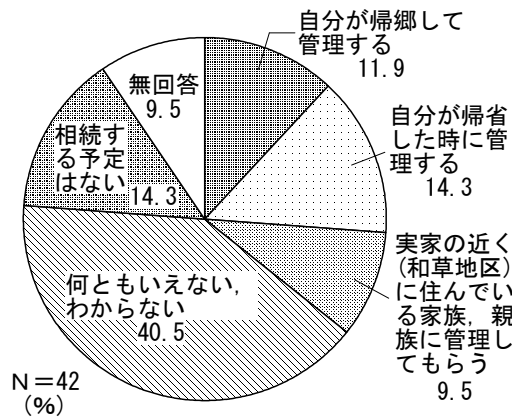


(4) 住宅・農地の管理，活用について

ア 住宅を相続した場合の管理，活用意向

住宅を相続した場合の管理，活用意向は，「自分が帰郷して管理する」11.9%，「自分が帰省した時に管理する」14.3%，「実家の近く（和草地区）に住んでいる家族，親族に管理してもらう」9.5%で，これらを合わせた住宅の管理，活用の方向を明確にしている人が35.7%です。また，「何ともいえない，わからない」40.5%，「相続する予定はない」14.3%になっています。

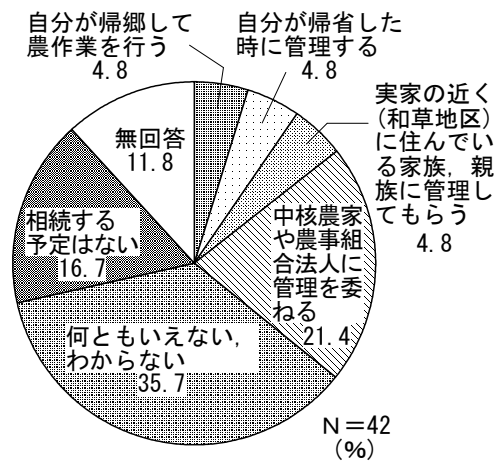
図 住宅を相続した場合の管理，活用意向



イ 農地を相続した場合の管理，活用意向

農地を相続した場合の管理，活用意向は，「自分が帰郷して農作業を行う」，「自分が帰省した時に管理する」及び「実家の近く（和草地区）に住んでいる家族，親族に管理してもらう」4.8%，「中核農家や農事組合法人に管理を委ねる」21.4%で，これらを合わせた管理，活用の方向を明確にしている人が35.8%です。また，「何ともいえない，わからない」35.7%，「相続する予定はない」16.7%になっています。

図 農地を相続した場合の管理，活用意向

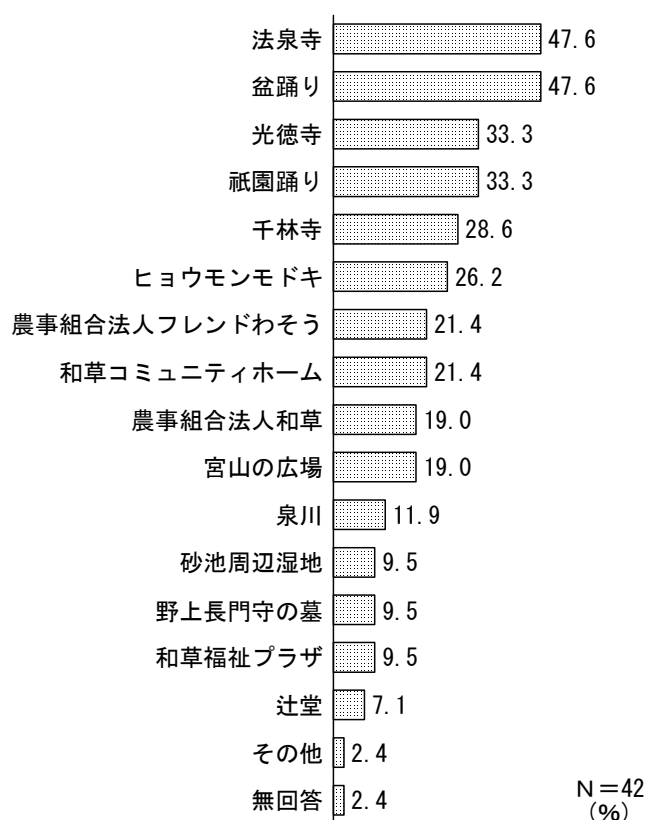


(5) 地区づくりについて

ア ふるさとで自慢したいもの・次世代に伝えた資源

ふるさとで自慢したいもの・次世代に伝えたい資源としては「法泉寺」及び「盆踊り」が47.6%で最も割合が高く、次いで「光徳寺」及び「祇園踊り」33.3%、「千林寺」28.6%、「ヒョウモンモドキ」26.2%、「農事組合法人フレンドわそう」及び「和草コミュニティホーム」21.4%、「農事組合法人和草」及び「宮山の広場」19.0%などの順です。

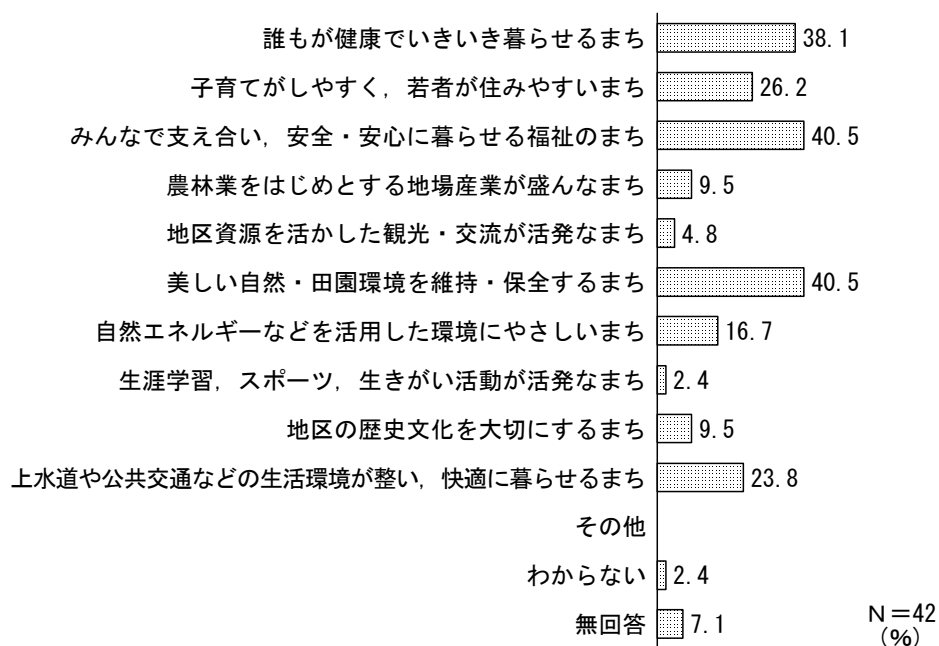
図 ふるさとで自慢したいもの・次世代に伝えたい資源（複数回答：いくつでも）



イ 地区の将来像

地区の将来像としては、「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」及び「美しい自然・田園環境を維持・保全するまち」を挙げた人が40.5%で最も割合が高く、次いで「誰もが健康でいきいき暮らせるまち」38.1%の順で、これら3項目が4割前後となっています。その他では、「子育てがしやすく若者が住みやすいまち」26.2%、「上水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち」23.8%などの順です。

図 地区の将来像（複数回答3つ以内）



3章 地区の魅力・資源と問題点・課題

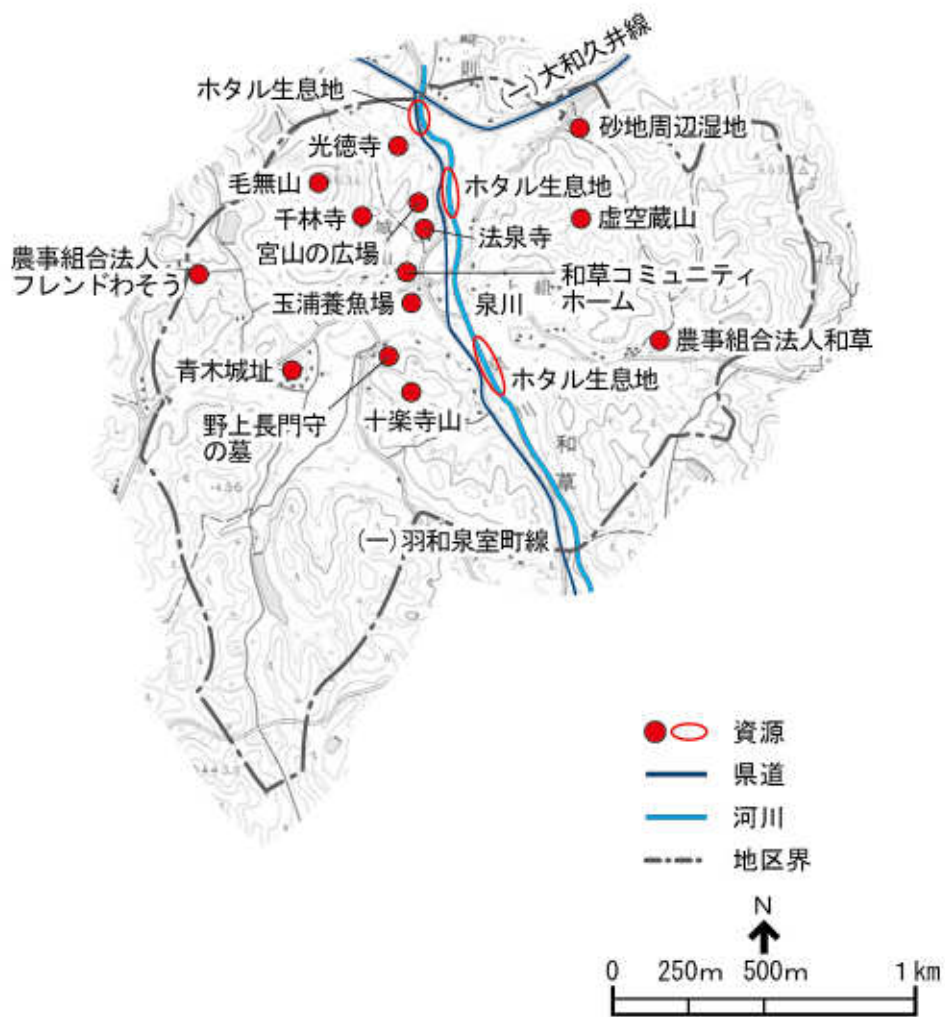
1 地区の魅力・資源

地区づくりに関するアンケート調査結果及び地区づくり意見交換会（ワークショップ）での意見を踏まえて、地区の魅力・資源を整理すると、次のとおりです。

表 の魅力・資源

区 分	魅力・資源
自然資源	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然環境 ・四季の変化を感じることができる気象条件 ・空気、水がきれい、静かな環境 ・住民に親しまれている毛無山，虚空蔵山，十楽寺山 ・千林寺境内のアカガシの巨木（樹齢千年以上と推定） ・砂池周辺湿地（日本有数のサギソウの自生地） ・キキョウ（絶滅危惧種），リンドウ，春らんの自生地 ・彼岸花の咲いている場所 ・ヒョウモンモドキの生息（農地の上を飛翔） ・ホタル，メダカの生息 ・キジ，ヤマドリなどの野鳥の生息
歴史文化資源	<ul style="list-style-type: none"> ・千林寺，光徳寺，法泉寺 ・野上長門守の墓 ・青木城址（中世の城） ・沖見地蔵（千林寺） ・辻堂（4か所） ・盆踊り，祇園踊り
産業資源	<ul style="list-style-type: none"> ・寒暖の差が大きく，農業に適した気象条件 ・地区の農業を支える2つの農事組合法人（和草，フレンドわそう） ・おいしい米（献上米），レンコン ・自家製の味噌，野菜の古漬け ・イノシシなどの野生鳥獣肉 ・玉浦養魚場（鯉） ・鯉の商談に訪れた外国人が地区を観光 ・竹林
地区環境	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が少なく安全な地区 ・美しい田園景観（荒れ地が少ない） ・水田の畔のシバザクラ（和草コミュニティホーム西側の水田）
近隣関係 地区活動	<ul style="list-style-type: none"> ・助け合いの意識が高い，まとまりが良い ・ふるさと祭り，祇園祭り，秋祭り，とんど祭りなどの行事
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・住民に愛されている和草という名前 （草花の咲き誇る和やかな郷）

図 地区の魅力・資源



2 地区の問題点・課題

地区づくりに関するアンケート調査結果及び地区づくり意見交換会（ワークショップ）での意見を踏まえて、地区の問題点・課題を整理すると次のとおりです。

表 地区の問題点・課題

区 分	問題点・課題
高齢者の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の支援が必要な高齢者の増加 ・一人暮らしなどの高齢者のみの世帯の安全安心な生活の確保（安否確認，悪質な訪問販売被害などへの対応） ・路線バス，ふれあいバスの便数が少なく，利用が不便 ・車を運転できない人，バス停まで歩くことができない人などへの交通手段の確保 ・高齢者の交流活動，生きがい活動の場の不足 ・いきいき・ふれあいサロン参加者の固定化（特に男性が少ない）
人口減少・若者定住・子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・地区で生まれ育った若者の流出，U I ターン不足 ・若者の就業の場，能力を発揮できる場の不足 ・若者向け住宅の不足 ・若者の娯楽の場（カフェ，カラオケ，フィットネスなど）の不足 ・20～30歳代の減少に伴う子どもの減少 ・子どもの遊び場不足 ・高校が遠方で通学が不便（通学時間，通学費等の問題）
農林地・農林業	<ul style="list-style-type: none"> ・農事組合法人に依存した農地管理 ・若い農業従事者が少ない，農業研修の場の不足 ・農事組合法人の担い手不足 ・個々の農家による水田の畔管理の困難化 ・農作物の有害鳥獣被害の増加 ・農業所得の低迷，特産品不足 ・山林・竹林の荒廃 ・マツタケの不作
観光・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業を訪れる外国人商談客が寺院などを周遊する程度で，来訪客は少ない ・他地区の人との交流機会がない
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・地区に商業施設がない ・路線バスで通勤通学できない（路線バスの便数が少ない，三原市中心部と連絡する県道の未改良（恵下谷） ・地区内の市道の管理不足 ・寺院を周遊する散歩道の管理不足 ・道路，水路の草刈りなどの困難化 ・空き家の適正な管理，活用 ・歴史文化資源の管理不足（野上長門守の墓等）
地区活動	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少，高齢化の進行の中で地区活動（交流，行事，団体活動等）に係る個人負担の増大 ・若者の地区活動への参加が少ない ・伝統芸能の後継者不足（特に祇園踊り） ・同世代，世代間交流の場が少ない ・男性が気軽に集う場がない

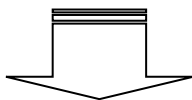
4章 地区づくり計画

1 地区の将来像

地区の将来像は、本地区の魅力・資源や問題点・課題などを踏まえて、“^{なご}和やかな心
でつながる ええとこ和草”を掲げます。

図 地区の将来像

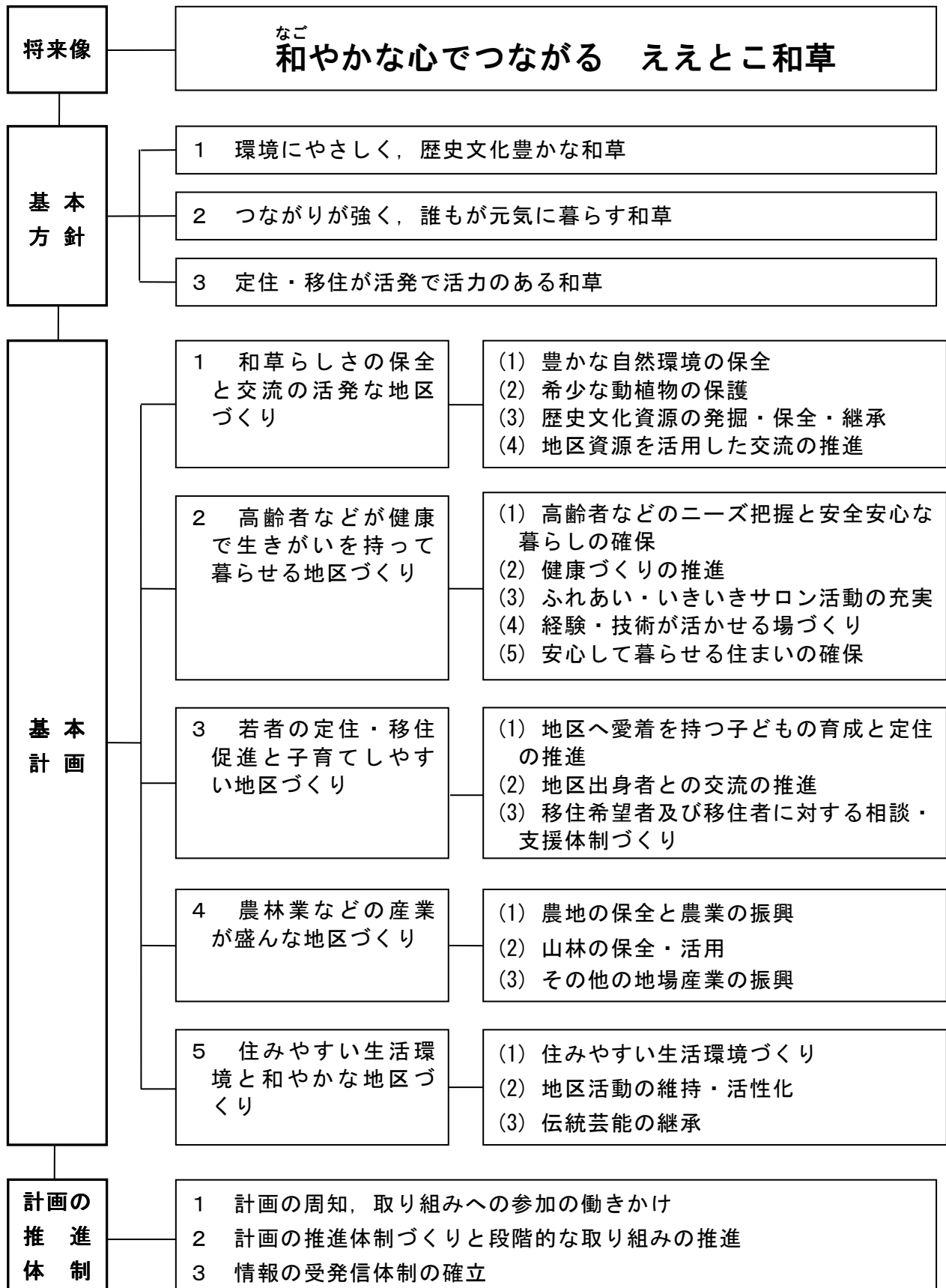
<地区の魅力・資源>	<地区の問題点・課題>
<ul style="list-style-type: none">・比較的便利な高速交通条件・世羅町中心部に近く，通院，買い物などが便利・豊かな自然環境・ヒョウモンモドキ，サギソウなどの希少な動植物の生息・3つの寺院，城址をはじめとする豊かな歴史文化資源・2つの農事組合法人が支える農業・特徴のある産業（養鯉業）・美しい田園景観（畔のシバザクラ等）・親しまれている地区行事，伝統芸能・「和草」という名前・良好な近隣関係	<ul style="list-style-type: none">・人口減少の抑制への対応・高齢者のみの世帯などの生活支援・若者などの定住・U I ターンの確保・遊休農地の増加，山林の荒廃への対応・農家及び農事組合法人の担い手不足・有害鳥獣被害への対応・地区外の住民との交流機会の不足・生活環境の改善，空き家の適正な管理・活用・自治区などの各種団体，伝統芸能の担い手不足



<地区の将来像>
<p>^{なご}和やかな心でつながる ええとこ和草</p>

地区の将来像の実現に向けた地区づくりの体系は次のとおりです。

図 地区づくりの体系



2 地区づくりの基本方針

地区の将来像を実現するために、3つの地区づくりの基本方針を掲げます。

1 環境にやさしく，歴史文化豊かな和草

緑豊かな山林，地区中央を流れる泉川，ヒョウモンモドキ，サギソウをはじめとする希少な動植物が生息する環境を保全するとともに，3つの寺院をはじめとする豊かな歴史文化資源の発掘・保全・継承などを進め，環境にやさしく，歴史文化豊かな和草の実現を目指します。

2 つながりが強く，誰もが元気に暮らす和草

高齢者のみの世帯などの生活や子育ての支援，住民全ての健康づくり，住みやすい生活環境づくり，地区活動の維持・活性化，伝統芸能の継承などを進め，住民相互のつながりが強く，誰もが元気に暮らす和草の実現を目指します。

3 定住・移住が活発で活力のある和草

地区へ愛着を持つ子どもの育成と大人になっての定住，地区出身者との交流，空き家及び遊休農地を活用した移住の促進，移住希望者及び移住者に対する相談・支援体制づくりなどを進めるとともに，農林業，養鯉業などの地場産業の振興を進め，定住・移住が活発で活力のある和草の実現を目指します。

3 地区づくりの基本計画

地区の将来像及び地区づくりの基本方針を踏まえて、地区づくりの基本的方向とそれぞれの取り組み事項を掲げます。

取り組み事項の内容は、地区づくりに関するアンケート調査結果、地区づくり意見交換会（ワークショップ）、和草地区地域推進計画策定委員会における意見のうち、自治区をはじめとする各種団体及び住民が取り組み主体になる事項をとりまとめました。

1 和草らしさの保全と交流の活発な地区づくり

和草らしさを維持、充実するため、豊かな自然環境の保全及び希少な動植物の保護、歴史文化資源の発掘・保全・継承などに取り組みます。また、自然及び歴史文化資源を活かして都市住民及び外国人来訪客などとの交流を推進します。

(1) 豊かな自然環境の保全

- ・豊かな自然環境（山、空気、水、四季の変化等）の保全に取り組みます。
- ・地区の眺望が良好な毛無山について登山道、山頂広場の整備を行い、住民に親しまれる山づくりに取り組みます。
- ・泉川の河川環境の整備、ホテル、メダカの保護、育成などに取り組みます。
- ・千林寺のアカガシの巨木（樹齢千年以上と推定）の保護に取り組みます。

(2) 希少な動植物の保護

- ・絶滅危惧種のヒョウモンモドキ、野鳥（キジ、ヤマドリ等）などの保護に取り組みます。
- ・砂池周辺のサギソウのほか、キキョウ、リンドウ、春らん、彼岸花などの地区を特徴づけている植物の保護に取り組みます。

(3) 歴史文化資源の発掘・保全・継承

- ・3つの寺院、青木城址、野上長門守の墓、辻堂などの歴史文化資源の調査に取り組むほか、明治以降の歴史調査にあたっては、高齢者からの聞き取りや写真の収集などに取り組みます。
- ・歴史文化資源の適正な管理や寺院を周遊する散歩道の補修、草刈りなどにより地区を特徴づけている環境の保全に取り組みます。
- ・地区史づくり及びDVDへの保存、勉強会の開催などに取り組み、次世代へ歴史文化を伝えます。

(4) 地区資源を活用した交流の推進

ア 魅力マップづくり，ガイドの育成

- ・自然，歴史文化，産業などを紹介する地区魅力マップの作成に取り組みます。
- ・来訪客に地区の魅力を体験してもらうため，地区魅力マップを活用した様々な周遊コースづくりに取り組みます。
- ・来訪客に対して住民誰もが地区を案内できるように，地区の魅力に関する勉強会の開催に取り組みます。

イ 他地区との交流の推進

- ・地区資源を活用して様々なイベント（登山，花・ホテルの観賞，野鳥の観察，歴史文化探訪，産業体験等）を開催し，地区出身者，都市住民などとの交流を推進します。

ウ 宿泊施設の確保

- ・都市部の小中学生の農山村体験，企業・大学の研修の受け皿になれるように，寺院及び農家民泊での受け入れに取り組みます。

エ 外国人来訪客のもてなし

- ・地元企業に来訪する外国人商談客の観光ニーズに対応した地区魅力マップの作成などに取り組みます。

2 高齢者などが健康で生きがいを持って暮らせる地区づくり

高齢者、障害者が健康で生きがいを持って暮らせるように、ニーズ把握と安全安心な暮らしの確保、健康づくりの推進及びふれあい・いきいきサロン活動の充実に取り組むとともに、高齢者の経験・技術が活かせる場、一人暮らし高齢者などが安心して暮らせる住まいの確保に取り組みます。

(1) 高齢者などのニーズ把握と安全安心な暮らしの確保

- ・高齢者などのニーズを聞き取り、どのような支援が必要か把握します。
- ・社会福祉協議会、民生委員・児童委員、住民が協力して一人暮らし、高齢者のみの世帯などの見守りサポート体制を構築しており、今後もこうした活動の維持・充実に取り組めます。
- ・車の運転ができない高齢者などに対する通院、買い物などの外出支援に取り組めます。
- ・高齢者に対する感謝、慰労の場となっている自治区主催の敬老会やニコニコ会食の充実に取り組めます。
- ・高齢者、障害者が安全安心な日常生活が送れるように、三原市、地域包括支援センター、社会福祉協議会などと連携して、ふれあい・いきいきサロンなどで出前講座を開催し、災害時の避難、介護保険制度、悪質な訪問販売被害の防止などの情報提供に取り組めます。

(2) 健康づくりの推進

- ・健康状態に応じて地区の魅力を楽しめるウォーキングコースづくりを行い、高齢者だけでなく全住民を対象としたウォーキング大会を定期的で開催します。イベント開催にあたっては、企画・高齢者の歩行支援などへ若者の参加を働きかけます。
＜地区資源を活かしたウォーキングコースの例＞
 - ・四季の花の観賞、野鳥の観察
 - ・地区の歴史探訪（3つの寺院、青木城址、辻堂等）
- ・家庭で使用していない健康器具を収集し、トレーナーの指導のもとにこれら器具を活用した運動に取り組めます。

(3) ふれあい・いきいきサロン活動の充実

- ・ふれあい・いきいきサロンに関する情報（日程、内容）の周知を強化し、参加を促進します。
- ・ふれあい・いきいきサロン活動へ男性の参加を促進するため、男性に魅力あるプログラムづくり（スポーツ活動、物づくり、男性料理教室等）に取り組めます。
- ・ふれあい・いきいきサロン活動のスタッフとして若者の参加を働きかけます。

(4) 経験・技術が活かせる場づくり

- ・元気な高齢者が自分の経験・技術を活かせるように、農林業における軽作業，地区の歴史文化学習，昔遊びなどの指導，困りごとのある高齢者に対する支援などの生きがい活動，地区貢献の場づくりに取り組みます。

(5) 安心して暮らせる住まいの確保

- ・元気な一人暮らし高齢者などが安心して暮らせるように，空き家を活用して共同で生活し，支え合うことができる共同居住施設（シェアハウス）づくりに取り組みます。

3 若者の定住・移住促進と子育てしやすい地区づくり

若者の定住・移住が促進されるように、地区で育った若者の定住の推進，地区出身者との交流の推進及び移住希望者及び移住者に対する相談・支援体制づくりに取り組みます。また，子育てしやすい地区づくりに向けて，学習塾の設置・運営，豊富な地区体験機会の提供及び遊び場の整備などに取り組みます。

(1) 地区へ愛着を持つ子どもの育成と定住の推進

- ・児童・生徒に対する登校，下校時の声かけなど，地区全体で子育てに取り組みます。
- ・小中学生の学力向上を図るため，日祝日及び長期休暇中などに近隣の大学の学生を講師とする学習塾の開催などに取り組みます。こうした学習塾の開催にあたっては，近隣地区の子どもの参加を促進し，賑やかな交流の場とします。
- ・子どもが野外で楽しく遊べるように，宮山の広場の整備に取り組みます。遊具については，間伐材を活用した木製遊具づくり，不要になった遊具を譲り受けて整備するなど，費用のかからない方法を検討します。
- ・小中学生の頃から同世代及び世代間の交流を推進するとともに，自然，歴史文化，産業など各分野における体験機会の提供，地区行事へのスタッフとしての参加などを通じて，本地区に対する愛着を育み，定住に結びつけます。
- ・若者が活発に交流し，能力を発揮できる場づくりに取り組みます。

(2) 地区出身者との交流の推進

- ・今回行った地区出身者（正月の帰省者）に対するアンケート調査を踏まえ，地区出身者との交流を一層推進します。このため，地区出身者名簿の収集，地区との交流に係るアンケート調査，地区との交流を望む人に対する定期的な情報発信などに取り組みます。
- ・地区出身者に対して地区行事への参加を働きかけるとともに，同窓会などを開催する際の支援に取り組みます。

(3) 移住希望者及び移住者に対する相談・支援体制づくり

- ・地区外からの移住を促進するため，インターネットなどを活用して和草地区の魅力（災害の少なさ，豊かな自然，美しい田園環境，3つの寺院に代表される歴史文化等），移住情報（住宅，農地，仕事等）の発信に取り組みます。
- ・移住希望者に対するお試し暮らし体験の提供，空き家の紹介，修繕などの支援を行い，移住促進に取り組みます。
- ・移住者が地区の生活に馴染めるように，地区全体で相談・支援する体制づくりに取り組みます。

4 農林業などの産業が盛んな地区づくり

農林業などの産業が盛んな地区づくりに向けて、農業の担い手育成、農地の保全と有害鳥獣対策の推進及び特産品づくりなどによる農業の振興に取り組むほか、山林の保全・活用及びその他の地場産業の振興などに取り組みます。

(1) 農地の保全と農業の振興

ア 農業の担い手育成

- ・農事組合法人及びJ Aと連携して地区の若者に対する農業指導に取り組み、農業後継者を育成します。
- ・農事組合法人と連携して受け皿づくりを進め、農業に関心のある若者（広島県立農業技術大学の学生等）の本地区への移住を働きかけます。
- ・地区において水田を管理している2つの農事組合法人の運営体制の強化を支援します。

イ 農地の保全と有害鳥獣対策の推進

- ・ふるさと保存会、農事組合法人と連携して、農地、農業用水などの保全管理と農村環境の保全向上に取り組みます。
- ・農事組合法人などと連携しながら地区全体で有害鳥獣対策の推進に取り組みます。
- ・イノシシ肉を活用した食品の製造、ジビエ料理としての提供に取り組みます。

ウ 農業の振興

- ・昼夜の温度差の大きい気象条件を活用し、農事組合法人が取り組むブランド米づくり、特徴のある農産物（レンコン、ブルーベリー等）の生産を支援します。
- ・農産物の加工、販売を推進するため、農事組合法人と連携して講習会の開催、グループづくり、加工品（豆腐、味噌、漬物等）の研究・製造、農産物及び加工品の直売（週1回程度）などに取り組みます。

(2) 山林の保全・活用

- ・荒廃している里山の保全、整備、間伐材などを活用した薪の製造、販売に取り組みます。
- ・竹炭の製造と農地の肥料としての活用、竹灯籠の製造とイベントでの活用などに取り組みます。
- ・マツタケ山の再生に取り組みます。

(3) その他の地場産業の振興

- ・本地区には国内外を市場として活動する養魚場（養鯉業）があり、こうした企業と連携した地区づくりを推進するとともに企業活動の応援に取り組みます。

5 住みやすい生活環境と和やかな地区づくり

住みやすい生活環境づくりに向けて、安全な地区づくり、美しい田園景観づくり及び空き家の適正な管理・活用などに取り組みます。

また、和やかな地区づくりに向けて、地区内交流の推進、地区行事及び自治区活動の維持・活性化、伝統芸能の継承などに取り組みます。

(1) 住みやすい生活環境づくり

ア 安全な地区づくり

- ・災害時の安全を確保するため、自主防災組織活動の充実を図るとともに、要支援者に対する支援体制の充実に取り組みます。
- ・夜間の安全を確保するため、防犯灯の整備に取り組みます。

イ 美しい田園景観づくり

- ・美しい田園景観づくりに向けて、水田の畔のシバザクラ、センチピートグラスの維持、日本タンポポ（白色）の植栽などによる昔ながらの田園景観の復活などに取り組みます。
- ・地区の環境保全活動を推進するため、ふるさと保存会、農事組合法人などと連携して環境保全体制づくりに取り組むとともに、広島県アダプト制度などを活用しながら活動の活性化を図ります。

ウ 空き家の適正な管理、活用

- ・地区の空き家調査、所有者の確認と活用意向の把握を行った上で、空き家バンク登録の働きかけ、地区での活用可能性の検討などに取り組みます。
- ・老朽空き家については、三原市と連携して所有者へ適切な対応を働きかけます。

(2) 地区活動の維持・活性化

ア 地区内交流の推進

- ・地区住民の幅広い交流（同世代、世代間、各種団体、サークル等）を推進して、地区住民相互の連帯感の強化に取り組みます。
- ・和草コミュニティホームを昼間開放し、住民が自由に交流できる場づくり（食事、お茶、コーヒー等の提供）に取り組みます。また、空き家を活用して男性相互が気軽に交流できる場の確保に努めます。
- ・遊び、スポーツを楽しむ場として宮山の広場の整備、活用に取り組みます。

イ 地区行事の維持・活性化

- ・行事のスタッフとして若者が参加しやすい環境づくりに取り組みます。
(若者に企画・運営を委せ、壮高年齢層は側面支援する等)
- ・女性スタッフなど一部の人に負担(行事における料理づくり等)が集中せず、誰もが楽しめるように行事の簡素化、幅広い参加による役割分担などに取り組みます。
- ・地区行事(とんど祭り、祇園祭り、ふるさと祭り、秋祭り等)の充実に取り組みます。
- ・子ども、若者が主役になれる行事づくりに取り組むとともに、就学前の子どものいる世帯が行事に参加しやすいように、行事の開始時刻を早めることを検討します。

ウ 自治区活動の維持・活性化

- ・人口減少、高齢化が進む中で自治区活動を維持するため、役員選出方法の見直しに取り組みます。
- ・三原市の支援制度を活用して地域支援員を確保し、自治区活動の活性化に取り組みます。

(3) 伝統芸能の継承

- ・ふるさと祭りで踊る盆踊り、祇園祭りで踊る祇園踊りを継承するため、踊りの練習会の定期的な開催に取り組み、壮高年齢層だけでなく児童・生徒、若者などの参加を働きかけます。また、地区出身者に対しても練習、祭りへの参加を働きかけます。
- ・住民や地区出身者が個人で盆踊り、祇園踊りの練習ができるように、踊りの指導、祭り当日の状況などを収録したDVDを作成し、希望者に配布します。

4 計画の推進体制

(1) 計画の周知，取り組みへの参加の働きかけ

- ・住民へあらゆる機会を通じて「和草ええとこ夢プラン」を周知するため，計画書，概要版の全戸配布，各種団体の会合などで「和草ええとこ夢プラン」の説明を行うほか，今後の地区づくり活動への参加を働きかけます。

(2) 計画の推進体制づくりと段階的な取り組みの推進

ア 計画の推進体制づくり

- ・地区づくりへの当事者意識を住民一人ひとりが持つように働きかけるとともに，住民の幅広い参加による地区づくり実行体制を確立します。特に，女性，若者の積極的な参加を働きかけます。
- ・本地区の各種団体との連携を強化し，一体的かつ幅広い活動を推進します。
- ・人材バンクの設置，登録により，適材適所の人材活用（できる人，やりたい人，ボランティア）に取り組みます。

イ 段階的な取り組みの推進

- ・計画の優先順位付け（地区の重点課題への対応）を行い，段階的な取り組みを推進します。

＜重点的に取り組む事業の候補＞

- ・地区資源調査，活用事業
- ・伝統芸能継承事業（盆踊り，祇園踊り）
- ・高齢者総合支援事業
（見守り，ふれあい・いきいきサロン活動，健康づくりウォーキング等）
- ・小中学生向け学習塾づくり事業
- ・農事組合法人の担い手確保・6次産業化支援事業

ウ 取り組みへの多様な担い手確保，人材育成

- ・住民，各種団体，企業などとの連携を強化します。
- ・地区出身者，都市住民，大学生などの参加と応援，三原市などの支援を活用します。
- ・講習会，研修会，先進地視察などの実施による人材育成を図ります。

(3) 情報の受発信体制の確立

ア 地区内への情報発信

- ・地区行事などの周知を徹底するため無線放送を活用した情報発信に取り組みます。
- ・自治区便りの発行に取り組みます。
- ・若者世帯などに対し、インターネットなどを活用した情報の発信に取り組みます。

イ 地区外への情報発信

- ・インターネットを活用した和草地区の情報発信体制づくりを行い、地区出身者、都市住民、大学生などに対して地区の魅力・活動（年間行事・祭りカレンダー）、空き家などの情報を発信することにより、交流を推進します。

ウ 人材の確保

- ・和草地区のホームページなどを管理、活用できる人材を確保、育成し、タイムリーな情報の発信体制を確立します。

資料 計画策定の取り組み

1 和草地区地域計画策定委員会委員名簿

番号	名 前	役 職	所属団体
1	東 文隆	委員長	自治区 区長
2	龍野 和也	副委員長	自治区 公衆衛生推進委員
3	宗金 文一	事務局長	自治区 庶務会計
4	山根 信光	委 員	自治区 副区長 組総代 農事組合法人代表
5	松本 耕三	委 員	自治区 副区長 組総代 農事組合法人代表
6	城 すま子	委 員	自治区 監査 組総代
7	下中 輝昭	委 員	自治区 監査 組総代
8	土谷 純子	委 員	自治区 組総代
9	玉浦 浩二	委 員	自治区 組総代
10	中野 茂	委 員	自治区 組総代 保健・体育部長
11	貞宗 美恵子	委 員	自治区 組総代
12	左倉 俊光	委 員	自治区 組総代
13	貞廣 厚史	委 員	自治区 壮年会会長
14	高田 昭夫	委 員	自治区 老人会会長
15	松本 英義	委 員	自治区 子供会会長
16	菜原 須磨子	委 員	自治区 民生委員・児童委員
17	森藤 綾美	委 員	自治区 羽和泉社協和草地区委員
18	松井 藤枝	委 員	自治区 公衆衛生推進委員 福祉・厚生部長
19	宗藤 真澄	委 員	自治区 女性代表
20	小島 篤子	委 員	自治区 女性代表
21	龍野 和子	委 員	自治区 女性代表
22	小島 照行	委 員	くい環境会議代表 久井ライオンズクラブ会員
23	平畑 隆浩	委 員	久井ライオンズクラブ会員

2 計画策定の経緯

日 程	委員会等	協議事項等
平成29(2017)年 7月28日(金)	平成29年度三原市中山間地域活性化事業に係る打合せ	・地域計画策定の進め方について
9月8日(金)	第1回地域計画策定委員会	・地域計画策定委員会の設置 ・地域計画策定の進め方について ・アンケート調査, 地区づくり意見交換会(ワークショップ)などについて
9月23日(土)	第2回地域計画策定委員会	・アンケート調査について ・地区づくり意見交換会(ワークショップ)について
10月上旬~中旬	住民(16歳以上)アンケート調査	・アンケート調査票の配布・回収
11月15日(火)	第1回和草地区づくり意見交換会(ワークショップ)	・アンケート調査結果の報告 ・意見交換(地区の資源・魅力と活用のアイデア)
12月13日(火)	第2回和草地区づくり意見交換会(ワークショップ)	・地区の問題点・課題と解決方法について ・参加者が関心のあること, 取り組みたいこと
平成30(2018)年 1月上旬	地区出身者(正月の帰省者)アンケート調査	・アンケート調査票の配布・回収
1月20日(火)	第3回和草地区づくり意見交換会(ワークショップ)	・テーマ別の意見交換 ・優先順位の高い項目の検討と事業計画の作成
2月23日(金)	第3回地域計画策定委員会	・計画素案の協議, 修正
3月23日(金)	第4回地域計画策定委員会	・計画案の協議, 承認 ・今後の取り組みについて